

結果の見方

1. 耐震診断の結果について

耐震診断の結果は、震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示すものです。

震度5強程度の中規模地震に対しては、いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはありません。

2. 耐震性の確認方法

地震に対する安全性は下記の3区分に分類されます。

- I. 地震^{*}の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II. 地震^{*}の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III. 地震^{*}の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※震度6強から7に達する程度の大規模の地震

対象建築物毎の安全性は「耐震診断結果一覧表」と「附表」を用いて、以下の手順で確認します。

危険性が低い(区分Ⅲ)に該当する場合はこの部分を斜線標記

<耐震診断結果一覧表>

建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価結果			耐震改修等の予定		備考
				Is/Iso	0.40	Ctu・Sd	0.23	内容	
〇〇〇	〇〇町 〇番地〇	〇〇	5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso	0.40	Ctu・Sd	0.23		

<附表>

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
		地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
2	一般財団法人日本建築防災協会による「木造住宅の耐震診断と補強方法」に定める「一般診断法」及び「精密診断法」(時刻歴応答計算による方法を除く)	上部構造評点<0.7	0.7≧上部構造評点<1.0	1.0≧上部構造評点
3-2	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	Is<0.3 又は q<0.5	左右以外の場合	0.6≧Is かつ 1.0≧q
5-2	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	Is/Iso<0.5 又は CT・SD<0.15	左右以外の場合	1.0≧Is/Iso かつ 0.3≧CT・SD≦1.25 1.25<CT・SD
5-3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso<0.5 又は CT・SD<0.15・Z・G・U	左右以外の場合	1.0≧Is/Iso かつ 0.3・Z・G・U≦CTU・SD
5-5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合 Is/Iso<0.5 又は CT・SD<0.125・Z・G・U	左右以外の場合	1.0≧Is/Iso かつ 0.25・Z・G・U≦CT・SD
	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が非充腹材の場合 Is/Iso<0.5 又は CT・SD<0.14・Z・G・U	左右以外の場合	1.0≧Is/Iso かつ 0.28・Z・G・U≦CT・SD

①同じ番号の行を確認

②数値を比較し、該当する列の上部で安全性を確認